

建築士が関わる もの・まち・くらしづくり

—報告書2018—



公益社団法人 広島県建築士会

編集：社会活動委員会

今、私たちの身の回りは、あらゆる面で、大きな変化が進んでいる様に思います。それらを整理して何が大切で、どうあるべきかを問い直す必要に迫られています。世代の構成に大きな変化があり、少子高齢化の中で、それぞれの世代を生き抜かなければなりません。世代間の考え方も違ってきています。これをつなぐものとは何かを見つけ出さなければなりません。

まちの形成もそれに伴って大きく変化し、中心市街地に集中する傾向があります。

暮らし方にも大きな変化です。食生活は外食型に、住まい方も大家族から核家族、一人暮らしなど、様々です。

そんな社会の変化を皆で理解し、より良い住まいづくりを考え、社会の構成をまとめるまちづくりが必要です。各々の住まいづくりは個々の利用形態に合わせ、社会の地域形態も、それを構成する人、年代などに合った地域作り、それぞれのまとまりを豊かにする都市づくりが今後の私たちの課題です。私たちの身の回りや地域でも、皆が少しずつ力を出しあって豊かなまちづくりに貢献しなければなりません。

広島県建築士会では、社会活動委員会を設置し、その中に5つの部会を設け、これらの事に、建築士という専門的立場で取り組みを進めています。

「地域貢献活動センター部会」では、県内の建築士がかかわるまちづくりに関する活動の支援をしています。「まちづくり部会」では、今後のまちづくりのあり方と、防災／歴史（景観）／福祉／街中まちづくりなどについて、取り組みを始めました。「住宅部会」では、環境に配慮した木材活用の研究や取組をしています。「青年部会」は、次の世代を担う人が新しいものとの接点を見つけ出し、若者らしい活動を進めています。「女性部会」は青年部会と共有する点もありますが、女性ならではの活動を進め、それぞれに業務などで忙しい中、エネルギーを使って新しい時代のまちづくり、人づくり、生活づくりに活躍中です。

ここに29年度の活動が各支部活動も含めてまとめができた事を大変ありがたく思います。今後のよりよい活動につながっていく事を皆様にお願ひ致します。

公益社団法人 広島県建築士会
会 長 元廣 清志

社会活動委員会は、「青年部会」「女性部会」「まちづくり部会」「地域貢献活動センター部会」及び「住宅研究会」の5つの部会で構成され、お互いに協力し合いながら、社会と深く関わり合う活動に取り組んでいます。

今年度もこれまでの実績を踏まえて、各会共に充実した活動が行われてきましたが、会員の高齢化や減少、活動に向かう意識の変化等の問題が深刻になっています。益々社会活動委員会として各部会間の協力が必要になっていると同時に、各部会のこれからの在り方や活動への問題意識を問う議論が重要です。

ここでI部で今年度の社会活動委員会の活動を報告と同時にII部では広島県の7支部（広島、呉、尾道、福山、東広島、県北）の活動内容について報告しています。この報告書が広島県建築士会のより良い未来に向けて、社会的な活動の在り方を再確認し、今後の方向性を考察するための一助になれば幸いです。

公益社団法人 広島県建築士会
社会活動委員会 委員長 細見 恵

- I. 社会活動委員会（各部会）の活動報告 2
 - 地域貢献活動センター部会
 - ・福山トレーディングカード ふくめく製作委員会 3
 - ・地域資源を活かし地域を創造する職能団体の会 6
 - まちづくり部会 10
 - 青年部会 12
 - 女性部会 14
 - 住宅研究会 16
- II. 地域活動団体（支部）によるまちづくり活動 19
 - 広島地区 20
 - 呉地区 22
 - 東広島地区 24
 - 三原地区 26
 - 尾道地区 28
 - 福山地区 30
 - 県北地区 32

1. 社会活動委員会（各部会）の活動報告

公益社団法人広島県建築士会にある社会活動委員会は、地域貢献活動センター部会・まちづくり部会・青年部会・女性部会・住宅研究会の5部会で構成されており、平成28・29年度（2017・2018）の2年間を通じた活動、またその一部をご報告します。

・・・部会の紹介・・・

■地域貢献活動センター部会

広島県地域貢献活動センターは、建築士が自らの職能を活かし、建築士会を通じた地域まちづくり活動への支援を行うことを目的として、平成12年に広島県建築士会の組織として設立いたしました。毎年、建築士会の会員が参画し、継続的な地域貢献活動を行うまちづくり団体に対して助成を行っています。

今回は、平成26年から平成28年度までの3カ年に渡って継続的に活動された2団体の活動内容を報告させていただき、各活動のPRはもとより他団体の活動内容を知っていただくことで、情報共有を図りながら今後の活動に対する意識の向上と新たな活動へのヒントになればと思っています。

今後も当センターは、建築士の職能を活かした身近な地域貢献活動に対しての支援と情報を提供していきたいと考えております。

■まちづくり部会

まちづくり部会は、全国及び県内各支部の建築士が関わるまちづくり活動について情報を収集・集約し、それらをもとに意見交換や広報することにより、それぞれの活動の手助けが出来る部会を目指し活動しております。

ここでは、部会活動の二本柱である連合会を中心とした五つの専門部会の活動と県内のまちづくり団体への応援事業の内容をご報告させていただきます。

■青年部会

青年部会では、中四ブロック大会や若手建築志交流会への参加のほか、昨年度から開始した各地区持ち回りの定例会を継続して行っています。

その他、地区青年部主催の活動への参加も積極的に実施していますので、その具体的な内容について報告いたします。

■女性部会

女性部会では、これまで防災をテーマにした活動を継続しており、平成28年に「見つけて学ぶ☆たても防災探検隊」と題し、建物に設置される防災設備（階段、防火戸、誘導灯など）に着目したイベントを開催しました。いざというとき、建物から安全に避難するための防災レクチャーとして考えたものです。平成29年7月、東京で開催された「第27回 全国女性建築士連絡協議会」の分科会「防災への取り組み」においてコメンテーターとして参加しており、この企画を題材に参加者で議論をしました。初めての試みであったこの企画は、未熟な部分や残された課題も多くありますが、まちづくり活動のひとつのヒントになればと思い、ご報告いたします。

■住宅研究会

住宅研究会は、在来木造住宅をテーマに広島県木造住宅生産体制強化推進協議会と連携して、住宅講演会等を次のとおり毎年開催しております。

平成29年度は昨年日本建築学会賞を受賞された堀部安嗣さんを招き、上映会「堀部安嗣 建築の鼓動」と講演会「建築・住宅・船」を開催しました。

また、会員活動として会員相互の研究テーマに沿う住宅見学会として、武庫川女子大学甲子園会館（旧甲子園ホテル）と竹中大工道具館の見学を行いました。これからも住宅講演会等を開催していきますので会員の皆様のご参加をよろしく願います。

活動団体名	福山トレーディングカード ふくめく制作委員会	事業名	福山トレーディングカードふくめく
●活動の概要 福山の事を遊びながら学べるご当地トレーディングカード「ふくめく」を使った、郷土学習の推進。			
●活動組織の概要 福山市民のボランティア （青年会議所OB、学生、建築士会メンバー）		●他の団体・専門家との連携 福山市教育委員会 協働のまちづくり課	●建築士の関わり 福山の遺構や建物などの知識提供など
●活動のきっかけ 福山市民は、学区や町内の事を小学校で学ぶが、福山全体の事をあまり学ばずに大人になってしまい、郷土に対する愛着が低い。遊びながら福山の事を学ぶことで、自分のまちに誇りと愛着を持ってもらい、将来のまちづくり人口を増やすことを目的としている。			
●活動の内容と成果 活動の内容 各学校内でふくめくかるた大会に出場する児童を選定してもらい、12月23日にローズコムでトーナメント戦を実施しました。参加学校数は30校、参加児童数は56名となりました。応援にこられた保護者やボランティアさんを含めて、全体で約140名の事業になりました。各学校で、予選会を実施しており、校内予選参加者を含めると500名近くの児童が関わったものと推定されます。 中国新聞、読売新聞、山陽新聞に大会の様子が掲載されました。			
成果 学校内で校内予選を行ってもらったため、先生方に「ふくめく」の存在を知ってもらうことができ、郷土教育に効果があることを理解していただくことができました。 また、多くの児童が関わったことで、大会前後に、保護者さんからも、PTC活動や子ども会活動への利用問合せがありました。			
●今後の課題 小学校に対する事前説明などをもっと詳細に打ち合わせる必要がある。 審判員などのボランティア参加を早めに募る必要がある。			
●今後の計画 マスコミによる取材などを活用して、子ども達の成長の姿を伝えていく必要がある。 参加児童だけでなく、学校を巻き込んだ活動を続けたいと考えている。			
報告書作成者	所属 福山トレーディングカード制作委員会		氏名 渋谷和正
連絡先	TEL 090-7894-6667	FAX 084-926-3622	e-mail k-shibuya@428s.jp

学校対抗「ふくめく」かるた大会 2016 実施報告書

事業要綱

1. 事業の対象者

福山市内小学校 小学生

2. 事業目的

福山トレーディングカードふくめくのカルタ大会参加にむけて練習することで、福山の名所や歴史、地域の施設や文化など、地域の魅力の再発見や再確認につながり、子どもの郷土への愛着と誇りにつなげます。また、美術館や博物館、民俗資料館などのカードに記載された施設に行く仕組みをつくり、子どもに市内の学ぶ場所を知ってもらい、教育の向上につながるよう活動を続けます。

カルタ大会開催を機会に、プレーヤーの数を増やして、福山の子も達はみんな、ふくめくで遊んだことがある状態をつくりだします。子どもたちは福山のことを学び、自分のまちを語れる大人になり、福山のこれからのまちづくりを担う大人になってもらう事が最終目的です

事業概要

1. 実施日時

2016年12月23日(金)13:00~17:00

2. 実施場所・会場

福山市生涯学習プラザ(ローズコム)4階大会議室

3. 参加者数

選手参加数：小学生 56人(参加校数：30校)
来場者数(選手を除く)：保護者 約60人
スタッフ：3人
ボランティアスタッフ：24人(うち高校生12人)

4. 外部協力者

福山市教育委員会／福山市協働のまちづくり課／近畿大学附属広島高等学校福山校 高校生(ボランティア)／(一社)福山青年会議所(有志)／市民ボランティア／北海道大学工学院空間性能システム専攻都市計画研究室

5. 実施結果

12:30~受付開始
13:00~大会説明
13:15~試合開始
16:30~上位入賞者の表彰
16:45~片付
スイスドロー方式による全員参加の対戦を5回戦行い、上位4人による準決勝戦、決勝戦を行いました。

6. 参考資料

【メディア掲載】

中国新聞 2016.12.24 掲載

備後本社 編集部 記者：高本友子



読売新聞 2016.12.24 掲載

福山支局 記者：伊藤晋一郎



山陽新聞 2016.12.27 掲載

福山支社 編集部 記者：河内慎太郎



【活動風景】

1位表彰 トロフィー・表彰状授与



1~4位



大会風景



活動団体名	地域資源を活かし地域を創造する職能団体の会	事業名	地域の建築遺産活用「甍れ・建物&まちのコミュニティ」プロジェクト
<p>●活動の概要</p> <p>平成28年2月25日、歴史的建造物である建物群が国の登録有形文化財として登録された。その建物群を地域・学術・建築士等専門家と、保存、再生・活用等の手法を学び、活用に向けて修復するなど登録有形文化財として地域のシンボルとして位置づける取り組みを行う。</p> <p>近い将来この建物群を文化、歴史、ものづくり等の学習も出来る複合的な地域コミュニティの場として位置づけられる事を目指す。</p>			
<p>●活動組織の概要</p> <p>・19991年東城のまちづくりを考えるグループ東新会を発足して活動を進めてきて2013年趣旨に賛同するグループと共同活動する目的で東新会を中心とした団体に移行している。</p>		<p>●他の団体・専門家との連携</p> <p>・地元自治会住民。 ・広島県建築士会会員有志 ・他地域まちづくり団体 ・県北の芸術作家</p>	
<p>●活動のきっかけ</p> <p>活動地域内に、大規模な現在ほぼ空き家の企業の旧従業員自治寮が現存している。その建物群が広島県の代化遺産建造物の一つであることを知り、それをきっかけにその建物に関する概要を調べるうちに建物を修復保存し活用することで一昔前の地域のコミュニティの場の復活となればとの思いで活動を進めている。</p>		<p>●建築士の関わり</p> <p>・建築士会会員2名 ・他建築士2名 ・他県建築士 ・ヘリテージマネージャー</p>	
<p>●活動の内容と成果</p> <p>・地域を活性化させる目的として外部団体・世代・地域間交流事業等を催し、建物群を地域コミュニティのシンボルとして位置づけするため下記活動を実施した。</p> <p>①建物修復作業ワークショップ。(維持・活用に向けた修理、補修)</p> <p>・学術研究者、建築士、ヘリテージマネージャ、一般市民を対象に、専門技術技能を学びながら技術を習得し伝承も行う修復作業体験ワークショップを開催。 :国登録有形文化財の木製屋外階段、建物の建具修復と障子張り作業。木製行灯の製作体験。</p> <p>②学術研究者による文化財建物修復についてのセミナー開催。 ・奈良女子大学藤田盟児先生を講師として、広島、岡山、島根県の建築士、ヘリテージマネージャ、一般市民も対象に開催。</p> <p>③建物公開イベントの開催。 ・建物見学会、アートイベント、全国の文化財建物や木造小学校の写真展開催等。 ・日本建築学会歴史的建物データベース委員による(文化財建物の活用)についてのシンポジウム開催。</p> <p>⑤建物紹介冊子の作成。・国登録有形文化財として建物の価値観等をまとめた冊子を1000部作成。 ・各種団体に寄贈。(庄原市教育委員会を通じて小中学校等)</p>			
<p>●今後の課題</p> <p>庄原市の事業「魅力ある街並みづくり事業」の活動地周辺の計画概要のまとめができた。今後は一般市民により専門的に理解を深めてもらわなくてはならないと思われるので、地域内外の学術・建築・芸術・ものづくり等の専門家とのより深い連携と交流が課題である。</p>			
<p>●今後の計画</p> <p>27年28年に渡るワークショップにより庄原市の「魅力ある街並みづくり事業」の概要がまとまり、29年度より随時進められることとなったのでその趣旨に沿いと私たちの活動の整合性を図りながら進めていく。</p>			
報告書作成者	所属 広島県建築士会県北支部		氏名 榎原節男
連絡先	TEL08477-2-4544	FAX08477-2-4546	e-mail : kuukan-ssk@mx41.tiki.ne.jp

- *文化財建物修復作業体験
- ・国登録有形文化財の木製屋外階段の修復を広島県ヘリテージマネージャー徳岡秋雄氏の指導により修復作業体験を実施した。
 - ・対象：建築士、ヘリテージマネージャー、一般市民。
 - ・参加者は広島、岡山、島根県の建築士会会員や一般市民を含め約70名の参加。



- *障子張り作業体験
- ・建物の活用に向けて部屋の建具修復と障子張り作業を地元の建具職人の指導により体験として実施。

・ 対象：建築士、ヘリテージマネージャー、一般市民。



* 奈良女子大学藤田連盟児先生による文化財修復についてのセミナー開催

・ 対象：建築士、ヘリテージマネージャー、一般市民。



* 町並みの修景づくりの手段として修景道具（木製行灯）の製作体験を実施。



* 国登録有形文化財建物公開イベントの開催

・ 建物見学会、アートイベント、全国の近代建築写真展、シンポジウム開催。
・ 対象：地域内外の一般市民、建築士、ヘリテージマネージャ、芸術家、東城高校美術部等



* 日本建築学会歴史的建築データベース委員によるシンポジウム開催。



まちづくり部会 活動報告

まちづくり部会では大きく二つの柱をもって現在活動しています。ひとつは連合会を中心とした全国のまちづくり部会活動との連携、連帯を進めていくことと、もうひとつは、まちづくり応援隊事業として、県内各支部での建築士の携わるまちづくり活動を応援していく活動をしています。

連合会を中心とした全国のまちづくり部会活動については まちづくり活動の多様化で、活動が多岐にわたり拡散していることから、それらをより専門性の高い活動に進化させていく為に、まちづくり活動を大きく五部会に分け活動して行く方針が決まりました。それぞれ「防災まちづくり部会」「歴史まちづくり部会」「景観まちづくり部会」「街中(空き家)まちづくり部会」「福祉まちづくり部会」とすることが決まり、広島県建築士会でも五つの専門部会委員をこのほど決定し、全国のまちづくり活動との連携、連帯を進めて行くことにしております。

また、全国のまちづくり活動に加え、もう少し身近な単位での連携も必要とのことで各地域ブロックごとにもそれぞれの専門部会の活動の連携、連帯を図ろうと、中四国ブロックにおいても専門部会の地域リーダーを任命し、各ブロックごとの横の繋がりを持つことで更なる活動の充実を図って行こうと、昨年度より中四国ブロック9県のまちづくり委員長が集まったの会議を岡山にて開催し、より身近で具体的な活動の支援が出来る体製造りを現在進めているところです。



全国まちづくり委員長会議



中四国ブロックまちづくり委員長会議

また県内においては、まちづくり応援隊事業として、各支部での建築士の携わるまちづくり活動の情報を集約し、広く広報し、全国の類似の成功事例などを紹介しながら、それぞれの活動団体の支援、応援をしていきたいと考えております。

具体的には、呉支部の呉YWCAの建物保存活用活動と県北支部のヤマモトロックマシン保存活用活動について支援しております。



呉YWCA



ヤマモトロックマシン

今後ともまちづくり部会の活動に対し、皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。

平成28～29年度 活動報告

■ 定例会の実施

青年部会では、メンバーの固定化・高齢化を解消するため、各地区での若手の人材掘りおこしを目的として、この2年間、各支部を持ちまわりで定例会を行ってきました。



H28. 4. 23 福山



H28. 8. 27 三原



H28. 10. 15 東広島

平成28年度は、まず各支部がどんな状況で、具体的にどんな活動をしているのか、お互いの意見交換を例会で重ねました。

■ 各支部青年部会の活動支援

例会を重ねる中、例会の開催日にあわせて支部の活動を実施する、あるいは支部の活動にあわせて定例会を開催する等を配慮してくれる支部もありました。

実際に支部の活動に参加させてもらうことで、各支部の活動内容を知るきっかけとなりました。また各支部とも若手会員が減少するなか、県のメンバー全体で活動を支援していくような必要性も強く感じました。



H28. 6. 25 尾道 多門亭の清掃



H29. 3. 25 呉 ベンチ設置事業

■ 若手建築志交流会の準備

平成29年度に入り、平成30年度に広島で開催する中四国ブロック青年建築士協議会のイベント「若手建築志交流会in広島」の実行委員会を立ち上げました。

このイベントの目的は、若手に企画を任せて、青年部会の発展や活性化を図ることです。より若い世代に幅広く声をかけて、定例会と同時開催している実行委員会に参加してもらい、いろいろな意見を出してもらっています。

また、企画を行うためには、まず他の県がどのようなイベントを企画しているのか体験してもらうのが早いので、平成29年度の「若手建築志交流会in徳島」には12名で参加し、重要伝統的建造物群保存地区に選定された出羽島の散策を体験して来ました。



H29. 4. 22 福山例会&実行委員会



H29. 9. 24 若手建築志交流会in徳島

■ 産学交流会の企画

最後に、2年間の例会を重ねてきた成果として、東広島で「日本酒文化からわかる歴史と建築の話とこれまでの日本酒の見方が変わる講演会」とくぐり門、歴史庭園の見学会を青年部会主催の公益活動として企画しました。

講師に西条酒蔵通り歴史研究家の松木津々二氏を迎え、首都西条の歴史と街並みの成り立ちについて、日本酒の話を交えながらご講演いただきました。

また、開催が東広島だったということもあり、広島大学や近畿大学の先生方や学生にも声かけを行いました。

先生方に加え参加いただいた学生の皆さんも、講演会から見学会、懇親会と最後までご参加いただき、今後につながる有意義な産学交流会となりました。



H29. 11. 11 松木氏の講演会&懇親会

「見つけて学ぶ☆たてもの防災探検隊」

2016年10月開催

はじめに

これまでも、防災をテーマにした活動を行ってきました。(以下例)



防災連想ゲームDIY

耐震啓発活動(紙ぶるる)

非常食のワークショップ

これらの経験から、今後も防災をテーマにした企画継続していくためのポイントを整理しました。

1. 建築士の職能が活かせるか
2. 参加者に身近な問題として感じてもらえるか
3. 防災の認識向上と意識継続につながるか

1~3を踏まえ、新しくチャレンジしたのが「見つけて学ぶ☆たてもの防災探検隊」という企画です。

企画の概要と主旨

建物には、いざという時にみんなの安全を守る防災設備が、たくさん設置されています。どんな設備があるのか会場の建物を探検してみましょう



イベント案内チラシ

1. 建築士の職能が活かせるか
私たちの日常業務である防災計画(平面計画・避難計画)は建築士の職能を活かせる領域です。階段や防火戸、スプリンクラーや放送設備、誘導灯などの設備がどのように設置され機能するか情報を提供することができます。
2. 参加者に身近な問題として感じてもらえるか
レクチャーのみにとどまらず、実際に建物を歩いて設備を見るという体験により情報の取得効果を上げたいと考えました。
3. 防災の認識向上と意識継続につながるか
もしもの不安を取り除く情報を提供し、防災に対して前向きに考え取り組める企画がよいと考えます。また意識の継続については、今後も防災企画を続けていくことに意味があると捉えています。

開催建物

- 広島市中区袋町
「広島市まちづくり市民交流プラザ」
- ・平成15年に竣工した複合施設
 - ・日頃から様々な団体が展示や研修、イベント等に利用される建物
 - ・開催日は交流プラザ主催の「まちづくり市民交流フェスタ」(お祭り)日



まちづくり市民交流フェスタ開催日のエントランス前風景

広島市まちづくり市民交流プラザ

イベント構成

1. スライドや紙芝居を利用した、クイズ形式のレクチャー(20分程度)
 2. 館内歩き(30分程度)
- ※10:00~16:00まで、ブース形式にて参加者を随時受付

レクチャーについて

さまざまにある災害種類のうち、もっとも理解しやすい火災を想定し建物から安全に逃げるためのレクチャーとしました。クイズ形式とし、参加者の人には手元に○×の札をもってもらい回答してもらいながら進めました。

質問例(抜粋)

- ・目の前で火事が起きたらどうしますか?
(A:火を消す B:にげる)
- ・どうやって逃げますか?
(A:エレベーターを使う B:階段を使う)
- ・この近くに階段は何個ありますか
(A:1か所 B:2か所)



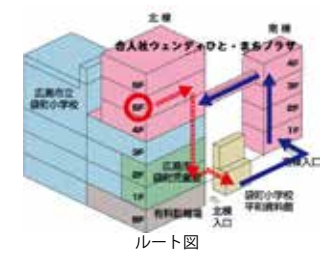
レクチャーに使用した紙芝居例

レクチャー時の様子

館内歩きについて

ルート設定を行い、ルート上にある防災設備の説明を行います。

1. 点線区間
レクチャーを行った5階から1階の避難階へ到達(避難完了)
2. 実線区間
別棟を経由し、その他の防災設備を説明しながらもとの5階会場へ戻る



ルート図

館内歩きの様子

■ルート上で説明した防災設備例



避難用掲示マップ

常時閉鎖式防火戸

代替出入口と送水口

可動式防煙垂壁

随時閉鎖式防火戸(くくり戸)

エレベーターカゴ内表示(1)

エレベーター押しボタン

感知器

非常照明

スプリンクラー

最後に

はじめての試みということもあり、反省点や気づきが多く見まりました。

1. 「まちづくり市民交流フェスタ」というプラザ主催のイベントの一部として開催したため、参加者を自ら募る作業は別に必要とせず、力を注いでいません。そのため、参加者の把握が想定しにくく、企画の一連(レクチャーと館内歩き)すべてを網羅することなく、レクチャーのみで終了となる参加者も多かったように思います。
2. 今後、建物の用途を変えたり他の地域で開催した場合等、シチュエーションを変えて再構成し、その場に合った内容に置き換えて企画を継続できるのではないかと考えています。
3. 防災設備の種類が多く、どれを説明するか選定に工夫が必要です。複雑なものや避難のストーリー(建物から逃げるあるいは建物に逃げる)によっては説明する防災設備も変わってくると感じます。



武庫川女子大学 甲子園会館の見学

【甲子園会館】

秋晴れの9月30日に住宅研究会のメンバーで、住宅に関する知識・経験を深めることをテーマに、甲子園会館に研修へ行ってきました。

午前中は、兵庫県西宮市にあるフランク・ロイド・ライトの愛弟子である遠藤新が設計した「武庫川女子大学 甲子園会館」(旧甲子園ホテル)をガイドの方に案内いただきながら見学し、午後から神戸市にある竹中大工道具館を見学しました。

甲子園会館は、1930年に関西屈指のリゾートホテルとして開業し、現在は武庫川女子大学の学舎として利用されています。華麗でモダンな姿は「東の帝国ホテル、西の甲子園ホテル」と称されたそうです。



見学を通して、印象的に感じた外観や装飾などについてお伝えします。

建物外観はシンメトリーであり、特徴的な2本の塔は、暖炉用で階段のような水平の庇がデザインされています。中央棟の部分には屋根はなく、低く水平を強調したフォルムは、ライトの意匠を受け継いだ遠藤新らしいものとなっています。

外壁に用いられた石は大谷石ではなく、日華石が使われており、大谷石より耐久性があるため今も姿を綺麗に留めています。外壁タイルはボーダータイルを使用し、目地を深くすることで細く見せる工夫がされています。

各居室の寸法は、装飾タイル割を元に決められており、全く無駄がありません。また、タイルなど使用している素材はそれほど多くありませんが、見せ方の工夫によって少ないとは思いません。



旧帝国ホテルやヨドコウ迎賓館などと比較すると、ライトの特徴である窓の装飾が少なく、比較的シンプルな窓となっていました。また、天井は全体的に高く、大らかな空間が連続していました。

そのほか、随所に日本独特のシンボルとなる「打出の小槌」や「市松格子」など、和の装飾が、洋式建築に巧みに取り入れられており、遠藤新の独自の世界観が表現されています。ディテールの豊かさは、何度も見ても飽きません。現代の建築では考えられないほどの時間をかけて、装飾と空間構成を融合させ高密度に造り上げている情熱には、溜息が出てしまうほどです。



甲子園会館は住宅と比べて規模こそ大きいものの、設計理念・哲学は、まさにライトの住宅建築そのもので、住宅の設計・空間構成にも役に立つ内容でした。

竹中大工道具館の見学



秋晴れの9月30日に住宅研究会のメンバーで、伝統的軸組構法の理解をさらに深めることをテーマに、神戸の「竹中大工道具館」に研修へ行ってきました。



今回は、特に印象に残った2点についてお伝えしたいと思います。

まず1つ目は、大工道具の変遷について見学中、特に印象的だった「大鋸(おが)」についてです。大鋸とは、丸太など大きな木材を製材するときに使う縦引きの鋸のことで、葛飾北斎の富嶽三十六景「遠江山中」に出てくる木挽きの風景で使われているのは、前挽大鋸という一人で使うことのできる大鋸です。

室町時代に大鋸が大陸から伝わってくるまでは、木を割って製材していたので、厚い板しか加工できず、世界最古の木造建築である法隆寺は、厚板を使って作られているそうです。大鋸が伝わり、薄い板や細い木材の加工ができるようになったことで、薮戸や障子が生まれ、風や光を取り込む開放的で繊細な日本建築へと発展していききました。大陸から伝えられた道具や技術を、研究し進化させ、独自の文化へ取り込むことを日本人は得意としていて、木造建築の分野では、その起源が大鋸にあるように感じました。日本の歴史や文化を大工道具を通して見返すことで、多くの新たな気づきに出会うことができました。



次に、実物大で展示されている数寄屋についてです。数寄屋とは茶室のことで、杉丸太や竹を使い、土壁で仕上げます。展示では、土壁の下地も見る事ができました。とても素朴な作りで、アメリカで展示したときには、「チープハウス」と呼ばれ、なかなか理解されなかったそうです。

もともと木材の乏しかった時代に、細い丸太や木の代用として竹を使った庶民の住宅の風情を茶人が好み、質素ながらも洗練された意匠の数寄屋建築へと昇華していききました。幽玄やわびさび、もののあわれといった日本の共生的自然観がまさに表われている建築だと思います。大量生産、大量消費社会の現代において、循環型の社会を築いていた時代の建築から、知恵や工夫、思想などを学ぶことは重要で、これからの仕事にも生かしていきたいと思いました。

刀剣や骨董品などと違い、大工道具は消耗品で、古い道具はなかなか現存していないそうです。そうした道具を収集、保存、展示しているこの道具館は貴重で、日本で木造建築に携わる一人として、見ておくべき内容だと思います。1時間ではとても足りません。会員の皆様ぜひ半日は時間をとって訪れてみてください。

住宅講演会「建築・住宅・船」

平成29年10月24日(土)住宅講演会を開催しました。講師は建築家の堀部安嗣先生。「guntū(ガンツウ)」の設計者です。私は10月に*ガンツウ内覧会に参加していたこともあり、船の話がとても印象的でしたので、今回は船にスポットを当てて紹介させていただきます。

ガンツウは宿泊型客船です。でもみなさんがイメージする巨大で豪華な白い船ではありません。私たちが日常で利用する機会があるカーフェリーよりも一回り小さい位でしょう。船体はグレー。頭上には切妻の屋根がちょこんと乗っています。プレスで最初にこの形を目にした時、「速くは走れそうにないな。」が第一印象でした。船をつくるなら、「速く走れるか?多く運べるか?外観がかっこいいか?」といったことが求められるかと思っておりましたが、ガンツウは違うのです。



講演会で堀部先生がガンツウの話題に入られた時、まず瀬戸内海の空撮のスライドを映されました。空から瀬戸内海を視察して、自然の美しさや多様性に驚いたと語られました。そして船を設計するにあたって「自分の仕事は、ありのままの風景が美しく見えるように的確にフレーミングすること」と感じたそうです。つまりガンツウが第一義としているのは、周辺との関係性です。そして設計時にイメージした空間として、京都の大徳寺、奈良の慈光院の話がされました。縁側と庭の親しい関係のようなものを船に活かさないかと考えたそうです。庭師は枯山水を海に見立て、建築家は瀬戸内海を庭に見立てたというわけです。

船の製造工程の話では、小屋がひっくり返った状態のスライドを映されました。船は建築と違い天地を動かしながら作業をしていくそうです。ちなみに逆さの小屋は配管作業をするためとのことでした。

また船の設計においては建築基準法のような法規書がなく、ガンツウでは工程ごとに国土交通省の個別認

可が必要で、お役人との度重なる折衝に苦勞されたことも伺いました。

一方、船と建築の似ているところとして進水式のスライドを見せていただきました。建築で竣工式より棟上式を盛大にするように、船でも進水式を盛大に行うそうです。進水式のガンツウも、デッキから水面に伸びる無数の紙テープが水引のようで晴れやかに見えました。

堀部先生はガンツウの設計をしながら、「住宅を設計してきてよかった。これまで住宅を設計していたから、ガンツウができたと感じた」と話されました。そして、講演の締めくくりとして「時代は木造に戻っている。大学などの教育課程において、住宅は入門編として扱われ、中級、上級になると規模の大きい施設の設計を教えていくが、住宅が基本である。住宅の設計ができればどんな建築だってできる。」と話されました。

実は、講演会の冒頭で堀部先生は、大型SCなど画一化、没個性化する街の景色のスライドを示し「自分は『建築は衰退している』という感覚をもって仕事に取り組んでいる」という趣旨の話をされました。だけど、そういう時代の流れの中にあっても「建築を衰退させたくはない」という意思が最後の言葉に込められているように聴こえました。



「住宅の設計ができればどんな建築だってできる」それは、会場に来られていた設計者、これから社会へ出ていく学生達、彼らへの応援メッセージでもあったと思います。

*ガンツウ:堀部先生が設計した客船の船名。地元でとれるイシガニの呼び名です。

II. 地域活動団体(支部)によるまちづくり活動

公益社団法人広島県建築士会では、地域活動団体(支部)として、広島・呉・東広島・三原・尾道・福山・県北の7つの地区に分かれています。

地域地区単位でのコミュニケーションを礎に、より地元地域に根ざした活動を目指しています。

平成28・29年度(2017・2018)の2年間を通じた活動、またその一部をご報告します。

広島地区 活動報告

国際交流フェスティバルぺあせろべ2017

「ぺあせろべ」は広島支部の公益事業の最大の事業であり、今年度で3回目となります。

広島支部が事務局の一員としてかわり、10月29日に国際交流事業「ぺあせろべ2017」を開催しました。



「ぺあせろべ」とは、英語のPEACE & LOVEをスペイン語風に発音した造語です。さまざまな国籍の人たちが一緒になって楽しめる場をつくり、国際交流を図ろうという市民の発意により、1984年にスタートしました。



会場の中央公園ではフードフェスティバルが開催され、毎年、多くの一般市民が参加され、建築士の活動などをアピールする絶好の機会になっています。



今年度は台風のため、午前中はあいにくの雨。そのため来客が少なく、芝生も田んぼのような状態で足元が悪く、かなり大変なものになりました。しかし、午後は少しずつ晴れ間も見え、どうかイベントの体裁を整えることができました。



今年のおし物としては、広島支部として「たてものがたりフェスタ2017」のパンフレットを配布するとともに広島県内の魅力ある建築物のパネル展示を行いました。



広島県青年部会、広島支部青年部会は「おうちバコづくり」を行い、子供から大人まで工作を楽しみました。また、活動報告や防災に関するパネル展示を行いました。

広島支部女性部会は被災地応援として、福島のメヒカリや日本酒、大分のトリ天を販売しました。また、東北や熊本の被災地を行脚し音楽で応援しているミュージシャンを、東京から招致し、歌っていただきました。

「建築センター広島」ではマイ箸づくりやミニカーを作ったエコカーグランプリ、「広島県建築センター協会」では竹とんぼづくりを行いました。



モンゴル、中国、ネパール、ハンガリー、カタール、インド、フィリピン、ユーラシア諸国なども出店しており、楽しい国際交流の場となりました。



今後もこの場を活用し、建築士会の存在を社会にアピールしていきたいと考えています。

呉地区 活動報告

呉地区支部の地域貢献活動は主に2つの分野で構成しています。1つ目は学びの場としての活動です。昭和59年から始まった呉建築セミナー、いろいろな建物を見学し見聞を広めると共に懇親の場となる県外研修会、建築技術者のための耐震技術セミナーや補助制度、新しい技術に関するセミナー等、年2回開催している各種講習会、そして県内各地で学びたいと思うところに出掛ける見学会です。



文化財修復現場見学会 (H28,9,4)



林業現場見学会 (H29,11,26)

どの活動も建築士会会員だけでなく、広く一般の方に参加を呼び掛け、建築を通して建物や街の景観、地域づくりに興味を持っていただき、建築士会の活動を知っていただけるよう活動しています。

その中でも特に地域に根差し広く知られている活動が呉建築セミナーです。

毎回、会員の数を上回る一般市民や学生さん達の参加があり、又セミナー後の懇親会では、講師と近く膝を交えた楽しい語らいの場となっています。



第33回建築セミナー (H28,11,7)



第34回建築セミナー (H29,11,9)



長崎ヘリテージツーリズム「近代化産業遺産端島(軍艦島、世界文化遺産)他見学」(H28,10)



次世代に残したい建物「森文旭館(なかなか遺産第2号)、内子座他見学」(H29,11)

2つ目は地域と共に進めるまちづくり活動です。

これまでも防災啓発活動や地域商店街活性化の一端としてワークショップ、展示等を開催していましたが、平成28年度からは商店街ベンチ事業として中通商店街に木製ベンチの設置事業を行っています。呉高等専門学校間瀬研究室の学生さんにデザインを検討していただき、ベンチの設置を希望する店主さまとの調整や打ち合わせを行い、実際にベンチを作成し設置しています。



平成28年度完成 たまごベンチ



平成28年度完成 お花屋さんのベンチ



平成29年度 時計屋さんのベンチ案プレゼン風景

また、ヘリテージマネージャーを中心としてなかなか遺産第3号呉YWCA建物保存活用事業に取り組んでいます。なかなか遺産共同代表の東京大学腰原教授指導のもと平成28年度に調査測量を行い、平成29年度は改修プランを検討するにあたり関係者及び関係団体となかなか会議を重ね、改修だけでなく今後の活用等を含め協議を進めています。

平成28年度建物調査



東広島地区 活動報告

建築士の日イベント 今では考えられない昔の人による本物の家づくり 2016.7.13

建築から見てくる現代社会の大量消費やスクラップ&ビルドなどによる環境破壊や空き家問題など後世につけをまわす流れを見つめ直してほしい思いから始まりました。
 先人達のとつもない苦労の上に出来た建築物、更にそれらが人力でつくられていたことなど今では想像もつかないことや「もったいない」という精神を心掛ける、ものを大切にするためのイベントを開催しました。
 場所、東広島市高美が丘中学校、対象者、高美が丘中学校全生徒



酒まつり 漆喰手形イベント 2016.10.8 2017.10.7

2016 例年行われている酒まつり漆喰イベントですが、2016年から内容を少し変え杉板に西条酒蔵通りの要素をふんだんに取り入れた手形漆喰を参加者に作って頂きました。(赤瓦、なまこ壁、杉玉、徳利、酒の字)
2017 2017年は、日本酒を入れる櫛に針金で酒蔵と煙突を描き、なまこ壁と杉玉をスタンプし、赤瓦風の用紙に手形を押ししました。
 場所、東広島市西条町 対象者、一般



2016



2017



建築士の日イベント ずっと住みたいまち そこには美しい景観がある 2017.7.8

都市における一極集中や田舎の限界集落の存在など現在の日本の都市計画には様々な問題があり、それは普段の景観を見ることでわかっていくという、景観から見える問題として講師を呼び欧米を参考にしたまちの作り方を教えて頂き、今後の東広島においても、中心地と中山間地域どちらも様々な問題点をどう改善していくか後世にとって負担をかけないまちをつくるためのテーマにした講演会を行いました。
 場所、東広島市福富町、対象者、会員、一般



東広島こどもドリームアカデミー 建築士の仕事 2017.7.9

東広島こどもドリームアカデミー(東広島青年会議所主催)の中で建築士ブースを設けて、将来に向けて建築士の役目や仕事内容、図面の書き方や模型の作り方を学ぶイベントを行いました。
 総勢48名の小学生が集まり、様々な形をした建築模型をつくり楽しみながら建築という立体的な空間を想像し知ってもらえたのではないかと思います。将来の建築士を生む大切な時間でありました。
 場所、東広島市八本松町、対象者、会員、一般



三原地区 活動報告

昨年度の主な活動内容は、三原市に新しく新築された「消防署」の完成見学会を、三原市建築課様の概要説明と施設案内で開催しました。

三原市の消防署は、元々台風や高潮の時には、敷地や道路が冠水することがある場所にありました。これでは、今後予想される災害時（地震・大雨による洪水等）に支障をきたす為、今回の建築地は高台に設定し、緊急時に迅速な対応が出来るようになっています。



【三原市消防署新庁舎】



【三原市建築指導課 説明会】

また、昨年と今年で、三原市は「三原城築城 450 年」という内容で多くのイベントを開催しています。さらに三原城を築城したといわれる、小早川隆景没後 420 年にもあたります。このイベントの一環として三原市教育委員会の学芸員と協力し、「三原市歴史的建造物調査研究会」という団体と共催で、小早川隆景のお墓がある、大徳寺塔頭「黄梅院」の見学研修会を行っています。多くの市民の参加者と一緒に、小早川隆景のお墓詣りを行いました。



【大徳寺塔頭「黄梅院」】



【小早川隆景のお墓】

さらに、三原市にある、保存の必要な建物（古民家）の有効活用を促進するため、地域住民やボランティアと一緒に、改修時工事に携わっています。

この建物は後に、借り主が決まり、大規模改修を行って、現在「飲食店」として再活用されています。



【ボランティアによる改修作業】



【現在の古民家 ピザ店として活用】

尾道地区 活動報告

■住宅相談会「住まいに関する何でも相談会」

尾道市との共催で行っている「おのみち福祉まつり」事業の一環として住宅相談会「住まいに関する何でも相談会」を実施しました。

この相談会は当支部の活動報告（パネル展示）や耐震等、住宅の安全に関する啓発を目的に平成19年から毎年実施しています。相談会では例年の通り、住まいに関する相談コーナーを設置。支部にて作成した耐震模型を使って筋交いの重要性を視覚的に経験してもらい、また模型内部に耐震シェルターを設置するなど、住宅の耐震化の必要性をより認識できる様な説明を工夫し、来場者への耐震診断・耐震改修補助制度の啓発を行いました。来場者（約900人）に毎年好評のティッシュ、風船を、耐震診断・耐震改修のパンフレットや空き家の適正管理、土砂災害対策の改修補助制度等のチラシと一緒に配布しました。相談件数は耐震診断4件、その他リフォーム等3件でした。



多くの来場者でにぎわう

■木造住宅耐震診断・耐震改修費補助支援活動

尾道市では住宅耐震診断補助事業を行っており、その支援活動を尾道支部で行っています。

今年度は6月1日より10月15日まで受付を行い、申込相談件数9件、申込受付は7件で、内5件に補助支援をしました。

■建築視察見学会「百島みんなの家」内覧会

「百島みんなの家」とは、尾道市百島支所と百島簡易郵便局が一体となった建物であり、それに加えて、百島に在住の子どもからお年寄りの方や、島外から訪れた人が気軽に集まり団欒できる『みんなの家』として、島の日常的な憩いの場所となることをイメージしています。

尾道支部では会員や関係者に広報し、多数参加しました。遠来の建築関係者や地元住民の皆様、報道関係者も含め多くの参加者があり、『みんなのホール』に入りきれない程の大盛況でした。

建物の外観は、唐傘のような大きな屋根と円形の壁。外壁は島の土を利用した土壁が、新しくも懐かしい佇まいを感じさせています。外壁には、住民参加によるワークショップでの大小の手形が礎石を思わせる様に残されていました。

平面は円形に近い平屋の建物で、屋根は円形上の外壁上から延びるたくさんの登り梁を、屋根の中心にあるリングに向かって寄せかける、明快な小屋組みとなっています。中央に柱の無い構造で、広く開放的なホールが確保され、手作り感いっぱいの雰囲気でした。

百島みんなの家

建物概要

敷地面積：429.96㎡

建築面積：212.09㎡

延床面積：180.41㎡



■地域実践活動「多門亭」

多門亭は地域貢献活動助成事業として平成22年より活動を続けています。

今年度は青年部により地域実践活動として「多門亭」での作業を昨年に引き続き実施しました。



「多門亭で畳を切る」 H28.6.25



「多門亭で筋トレ」 H29.6.24



多門亭（尾道市東土堂町）

■まちづくり研修会 尾道市原田町の地域活動見学会

昨年3月18日（土）、尾道市原田町「原田芸術文化交流館（旧原田中学校）」にて、「まちづくり研修会～尾道市原田町の地域活動見学会～」を開催しました。

当日は元廣清志会長に、建築士会に対する理解や地貢献活動のPRなどを行っていただきました。引き続き、NPO法人原田芸術文化交流館事務局長の佐藤顕治様に、「統合により廃校となった中学校を地域活性化の拠点とする取り組みについて」ご講演いただきました。次に、原田町歴史文化同好会事務局長の平岡顕様に「原田町の歴史を研究し町民が自分の住む町を知る事で、これからのまちづくりを考える」と題してご発表いただきました。この活動には広島県建築士会の地域貢献活動助成制度も活用されています。

午後からはNPO法人尾道まなび村（清実高等学園）事務局長の加藤千政様から、「不登校やニートなど若者の居場所づくりの取り組みと空家対策事業への取り組み」についてお話しいただきました。

定員30名いっぱいの参加者があり、大変有意義な講演内容で、盛況のうちに終えることができました。

尾道支部では他団体と共に尾道市原田町の地域活性化にも取り組んでおり、今年度も活動の支援を続けると共に、講演会、勉強会、見学会の実施を予定しています。



原田芸術文化交流館での講演会



尾道まなび村での講演会

福山地区 活動報告

福山支部社会活動委員会まちづくり担当部会では、自分たちの住む福山のまちにもっと関心を持ってもらいたいと思い、『2022年福山城築城400年に向けて』というサブタイトルの元、毎年講演会、散策と企画開催してきました。

1年目は福山のシンボル福山城の石垣に着目しました。きれいに整備されている福山城の石垣ですが、一部整備されていない部分もあり何とかできないものかと議論検討しました。そこで、まず知ってもらう事が大事だと考え講演会を企画しました。

第1回は『石垣からみる福山城』と題しまして、広島大学大学院 三浦正幸教授に講演していただきました。講演会後福山城にて散策しながら解説していただきました。参加者172名とたいへん多くの方に参加していただき福山城への関心の深さを感じました。



(第1回講演会、散策 講師三浦先生)



第2回は福山城『石の声を聴く』と題しまして、滋賀県より穴太衆積第十四代目石匠 栗田 純司氏に講演していただきました。講演会後はあいにくの雨の中福山城にて散策しながら解説していただきました。この年に発生した熊本地震により崩れた熊本城の残った石垣の映像はニュースなどで目にしましたが、伝統的な石積の技術の素晴らしさを解説していただきました。



(第2回講演会、散策 講師栗田先生)



第3回は福山城跡『築切遺構について』と題しまして、福山市立大学 西川 龍也教授に講演していただきました。福山城外堀と入川をつなぐ築切の役割、町の景観などを通して福山のまちづくりについて学びました。これからも福山支部社会活動委員会まちづくり担当部会は、福山の町にもっと関心を持ってもらい、福山の町をもっと好きになってもらい、自分たちの住む福山の町をより良い町にしていくための情報発信をしていきたいと考えています。これからもご協力よろしくお願いします。



(第3回講演会 講師西川先生)



県北地区 活動報告

県北支部は県北3市（庄原市・三次市・安芸高田市）の会員を中心に構成した支部で、会員数は88名、協力会員数26社です。

設計から施工まで様々な立場の会員が在籍しており、支部活動を通じて会員間の交流を進め、情報交換や技術交流による技術力向上や建築士としての資質向上を目指して活動しています。

活動としては、公共性や公益性の高い地域の建物を、より長く綺麗に使っていただけるよう、利用される方と一緒にメンテナンスする「公共施設維持保全ボランティア」を通じ地域交流を図っています。

また、建築に関する伝統を次世代へ伝えていくため、また、建築に興味を持ってもらうため小学校での体験教室等も行っています。

近年では、県北地域の特性を生かし「雪室」の構造の検討や試作品の製作、有用性の検討などを実施する「雪室事業」などを実施しています。

今年も庄原市の備北丘陵公園内に設置させていただいていますので、一度見に行ってください幸いです。

会員数の減少は否めませんが、県北ならではの活動を楽しみながら着実にと続けていきたいと思えます。



公共施設維持保全ボランティア



小学校での建築技術講座



左官体験



土壁体験



雪室製作風景 2月

全面に厚さ100mm 2重貼の断熱材



雪室開封 5月

雪の保存状態：約7割

リンゴ・ジャガイモ・ニンジン・日本酒など保存

↓ 3カ月保存

広島県立大学へ食品の成分検査依頼

検査結果

○水分、たんぱく質、脂質、炭水化物、炭分、エネルギーなど成分変化なし
—うまみ抜群！—



設置した雪室 備北丘陵公園内

外壁、屋根：焼き杉板貼り

公益社団法人 広島県建築士会

〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ5F

TEL : 082-244-6830 (代)

FAX : 082-244-3840

E-mail : info@k-hiroshima.or.jp

HP : <http://www.k-hiroshima.or.jp/>